このまち感じよう!
ここずたうん
大野南地区を楽しく育てる情報紙
発行：NPO法人ここずっと　2016 February 13
No.12

優しさがこのまちにひそんでいると気づいて、微笑み返しの春みつけた。
写真：ふくしラウンジにかかる手づくりののれん。（2016年2月2日撮影）

み～つけタウン

～ボーノとともに生まれた南区のスペースをのぞく～

ここに引っ越してきて良かったと共感のつぶやきを聞きながら――。

ボーノ相模大野の南北モールのあいだにある２階の自由通路。その大野銀座商店街寄り北側にあるスペースを知っていますか？　名称・南区地域福祉交流ラウンジ ＝ **ふくしラウンジ**と呼ばれるそこは、地域に根ざして活動している人たちが集まり、出会いとやさしさに満ちたスペースなのでした。相模大野に転居されてきたという８０歳過ぎのおばあちゃまは、ご家族に手を引かれてお帰りになる間際に「こちらに引っ越してきて本当によかった。楽しくて、安心できるところがあって幸せです」と言われました。そんな**ふくしラウンジ**をのぞいてみました。

ボーノ２階自由通路に面してある みんなの居場所―ふくしラウンジ

▲民生委員は市民の代弁者です、と語る青木さんです。

南区にはボランティアや福祉団体が活動をするためのスペースや拠点がもともと不足していました。大野南地区の社協や民生児童委員、まちづくり会議の３団体が連名で市にスペースづくりを要望することになりました。当時の野村・南区長を中心とした市の支援等が得られ、市営駐車場の管理スペースに空きができたことが好機となって設置されたのが、**ふくしラウンジ**なのです。大野南地区 84 人の民生委員の代表で、地域でサロン活動にも取り組んでいた若葉地区民生委員の青木智野さんが、現ラウンジの運営委員長となって、南区にとって初の福祉団体等が自主的に運営するスペースづくりにアイデアを発揮されています。「初めての試みだから、実績を出したいもの」と青木さんは意気込みを語ってくださいました。

▲「みんなのサロン」の様子です。この日は手話にチャレンジ。みなさん、熱心です。スペースの壁面にも注目ください。さりげなくギャラリーにもなっているのです。

ふたつの機能をもってます！

ふくしラウンジの機能は大きくふたつ。ひとつは、相談業務。困りごとを抱えた方に、解決のための福祉サービスをご案内します。適切な行政担当等へとつなげて、迅速にサービスが受けられるように、ラウンジが福祉の総合窓口的な役割を果たしてくださるわけです。

ふたつめが、ボランティアや福祉団体の活動拠点としての機能です。活動の担い手となって、その活動そのものが拡がっていくための情報や出会いが生まれるスペースとしての役割です。登録団体に無料で貸し出される活動室。コピー機や印刷機（有料）からノートＰＣに８０型ワイドスクリーンまで用意されています。

地区から地域へ拡がるスペース

もちろん、スペースが有効に利用されていく素地には、それぞれの地域、自治会単位のサロン活動があってのことです。南区７地区から集まったボランティア、地区サロンの担い手や民生委員が運営に協力してくれています。おしゃべりは心を解放し、出会いを育て、次のつながりを生み出します。こちらのラウンジではより広い地域単位のサロンを実現して、みなさんに気安さと拡がりを提供しているのです。

このかわいいスペース、昨年１２月までの開設３年足らずで利用者のべ４万３千人超を数えました。扉にある通り「ご自由にどうぞ」。敷居は限りなく低い**ふくしラウンジ**。一度のぞいてみてはいかがでしょうか？

#ふくしラウンジは、こんなこともしてます！

※開催は予定です。詳細はご確認ください。

●みんなのサロン	第１・３火曜日　10：00～12：00
●みんなのサロン コーヒーやさん	第２・４金曜日　10：00～12：30
●みんなの子育てサロン（ぽっかぽか）	第２・４火・水曜日　10：00～11：30
●にほんご教室	毎週土曜日　19：00～20：30
●高齢者支援センターの日	第１水曜日　13：30～15：30

お問い合わせは ☎042-701-3388 ふくしラウンジへ

ラウンジをお訪ねしたのは、２月第１週の「みんなのサロン」。そこに出店しにいらしたのは、「生活介護事業所　きらら」（麻溝台・写真）さん。「わたしがつくったの」と可愛いストラップや、同じく可愛い小袋のクッキーが並べられました。出店するのは、売上げをあげたいからではなく、「きらら」や商品のことを地域のみなさんに，もっともっと知ってもらいたいから、とのこと。
ふくしラウンジは、そんな出会いもあるところなのでした。

※ここずたうんはまちづくりを考える【NPO 法人ここずっと】が発行しています。

バリアフリー

ココの気持ち CAFE

ここ de シネマ第３回 は、ドキュメンタリー映画『アラヤシキの住人たち』（本橋成一監督作品　2015 年、117 分）です。
本作は長野県小谷村にある真木共働学舎の四季を追ったものです。その四季の美しさも共働で繰り広げられる暮らしも、都会にあるわたしたちのまちや暮らしとは、もしかするとかけ離れたものかもしれません。それでも、共働学舎の日々がこころに響くのは、「共に生きる居場所」が見えてくるからではないでしょうか。「生きづらさ」をいやし、こころの拠り所となってくれる「居場所」が見えてくるからではないでしょうか。
「ここでずっと暮らしたい」と願うのなら、不安の時代、多くのひとが生きづらさを感じないではいられないこの時代に、どんな居場所が必要なのか、どんな「居場所づくり」に努めていかなくてはならないか、そんなことを考えるヒントを求めて、このまちで出会った方にお尋ねしてみました。

あなたのここちよい居場所を教えてください

ふる里　幼馴染み　仲間

■田舎だね。熊本。球磨郡あさぎり町だよ。
(60 代 男性)

■テニス・サークルに行ってるとき。
仲間とおしゃべりしてると楽しいですね。(60 代 女性)

■ふる里ですよ。岐阜のね、郡上八幡。(70 代 男性)

オーガニック・カフェ&エコライフ
晴れ屋
(厚木市中町2-8-6　中町ビル2F)

■「晴れ屋」で誰かとごはんを食べてるとき。
うん、いまいちばん気に入ってるお店なの。　(40 代 女性)

■学生時代の仲間と過ごしている場所。
―― カラオケだったり、居酒屋だったり。
(20 代 男性)

■娘時代の友人と語り合うとき。
大阪出身でね、思っきり関西弁でしゃべりまくるの。
(60 代 女性)

■祖母の家。(20 代 女性)

■山の見える場所。今は、もう家はないけど
実家のあったところ。　(20 代 女性)

無いっ！ストレスをうまく解消しているっていうより、抜けてんじゃないかな？
(50代　男性)

ペット

飼い犬のそば。
(50 代 女性)

ネコとお話してるとき。
(60 代 女性)

みんなにきいてみて、年齢に関係なく、疲れているんだなぁ、という印象でした。だから、自分を肯定してもらえて、共感し合える居場所が大切なのだと思います。このまちに、多様な居場所をつくっていきたいと思いました。

子ども　いても いなくても

●どこでも、子どもといるとき。
(30 代から 70 代まで 女性多数)

●子どももいないときに、家のこたつで寝そべっているとき、かな。
(20 代 女性)

●もう過ぎ去ってしまったけど、子どもが小学生くらいのときの我が家。
すっかり成長してしまって、もう言うことをきかないよ、まったく。
(60 代 男性)

なんといってもいちばんは、おうち

(10 代から 70 代まで男女多数)

●我が家でのんびり。
(60 代 男性)

●お風呂にはいっているとき。(40 代 女性)

●陽ざしの差し込む台所にいるのが、いちばん。
(60 代 女性)

●居間のマッサージ・チェア。
父が購入したけど、母と取り合ってます。(30 代 女性)

●家庭よね。次が職場かな。いちばん快適で安心できるもの。
(70 代 女性)

●家族といっしょに住んでいる今の家。
だって、いつまでいっしょにいられるか分からないもの。(40 代 女性)

●居間のソファにいるとき。(60 代 女性)

●blu-ray でアクション物を観てるとき。(40 代 男性)

●ジムでヒップホップダンスしてるとき。
何もかも忘れられるの。
(50 代 女性)

●柏餅たべてるとき。
(40 代 女性)

オープン・ダイアローグしてるとき。
(70 代 女性)

※オープン・ダイアローグとは――
1980 年代からフィンランドで行なわれ始めた精神療法のひとつ。患者本人と、家族、医療者が上下関係なく、批判や批評を排して対話を行う方法。会話をするだけで、薬を飲まなくても、回復をみせる方法として注目されています。

寝床でしょっ、やっぱり！
(中学生 男子)

■おフトンで本を読みながらね、こう、ね、寝落ちするとき、ね。
(50 代 女性)

■ベッドのなかが、いちばん、しあわせっ。
寒いなかのベッドのなかって、至福じゃない？
(60 代 女性)

■家に帰ってきて、自分の部屋のベッド、最高！(20 代 女性)

■ベッドの中。たくさん寝てたいんだもん。(10 代 女性)

●大きなアートに囲まれているとき。
ほら、まちや自然のなかで
アート作品と出会うのが面白いのよ。
(50 代 女性)

里山やまちなかアートって、
下の写真のようなものです。
村おこし、まちづくりの一環として、地域全体を会場とみなして、現代アートを展示したりします。
ちなみに、2016 年は瀬戸内海トリエンナーレの年にもあたります。瀬戸内海の島々が会場となります。

▲越後妻有台地の芸術祭 2015 の作品

ここずたうん　このまちの声から

<ここ de シネマ　第2回>アンケート

第２回『沖縄　うりずんの雨』上映会にお見えになられた方に「生きづらさ」についてどう感じているかお尋ねしてみました。

◆なんと 54 名中 30 名近くが、実際に「生きづらい」と感じたり、「生きづらい」と感じないまでも否定しきれなかったり、自分以外の周囲の人たちが「生きづらそう」にしているのを感じていたのでした。

◆その理由を尋ねてみると、「自分のことしか考えない人が多い」「社会全体が人に優しくなくなった」「正しいことが通じない」ことを挙げ、政治の不満から格差の拡大、将来に夢が持てないと回答くださっていたのです。

◆もうひとつ――興味深いアンケート結果。『うりずんの雨』のジャン・ユンカーマン監督の前作品『映画　日本国憲法』にちなみ、「改憲についてどう思いますか？」と質問。その集計結果はこんなでした。

反対	44
賛成	1
どちらともいえない	7
無回答	2

こことも

▲定形さんと松本さん（右側）【ふくしラウンジ】にて。

みどり会　連絡先：「サロンみどり」担当　サダカタ　☎090－5581－1249

みどり会（＝相模原市精神障害者家族会）の定形和子さん（南区南台在住）に出会う機会をいただいたのは、<ここ de シネマ第２回>を通じてでした。第２回の上映作品『沖縄うりずんの雨』に関心を持ってくださった定形さんとのやりとりに利用したのが**ふくしラウンジ**でした。それをきっかけに、「**ふくしラウンジ**って、な～に？」となり、「**みどり会**のことを教えてください」になっていったのでした。
もともと保健所が主催となった精神障害者の家族教室から生まれたのが**みどり会**で、何とその活動歴は４２年を数えるそうです。**みどり会**は**ふくしラウンジ**で月１回の**<サロンみどり>**を開催。家族会等だけでなく、自分の暮らす地域で、普通の住民として本気になって話し合える場所を提供しています。**ふくしラウンジ**ができたおかげで、行きやすく集まりやすい場所ができただけでなく、「出会いがあって、新しいことに取り組む担い手となっていくことができた」と、定形さんは言われました。
そして、紹介いただいたのが、精神障害当事者である松本文之さん（南区相模大野在住）です。松本さんは南区精神障害者福祉協議会が 2015 年 5 月に取組んだ『むかし Matto の町があった』の上映会にかかわり、スワヒリ語で「絆」という意味の「KIVA」という市民活動グループを立ち上げて実行委員会で活躍されました。
松本さんは「精神障害者の当事者たちは引きこもってばかりいる」と語り、「自分も障害当事者となって初めて知ったことばかり」と続け、「40 年以上も活動してきた**みどり会**がある、ということも知られていないでしょ」と、まだまだこのまちにつながりが不足し、市民にとって大切な情報が伝わっていないことを訴えられました。確かにそうです。出会うことは何かを知り始めることです。このまちには未だ出会いきれず、つながりの可能性を秘めた事柄がいっぱいあるのだと、お二人に教えられる機会となりました。

まちかどで 福祉を実現しようとするひとたち

■イタリア映画　■■■
『むかし Matto の町があった』

ご紹介の記事のなかでふれている映画の Matto は精神障害者、Matto の町とは、精神病院を指しています。イタリア精神保健改革の父・バザーリアを描いた劇映画です。
３時間にわたる大作ですが、前後篇に分けてイタリア国内で TV 放映された際には、20%の高視聴率が記録されたといいます。
日本では各地で自主上映会が展開されています。今年８月６日（土）には、おとなりのまち・座間市で上映会が予定さています。

詳しくは、http://180matto.jp/

映画「むかしMattoの町があった」

なんでも情報交換
ぴあ・さぽノート

木パト に聞いちゃった！

～ このまちのホームレスの人たちを見守り、居場所づくりを手伝って、はや２３年目 ～

あなたのまちにも野宿者がいるでしょ――横浜寿町の野宿者支援ボランティアに行ったとき、そこで問われた言葉が、1993 年から始まった木曜日の夜にパトロールする活動、すなわち「木パト」の始まりとなりました。

わたしたちのまちだから、わたしたちが向き合い、つながる――活動の創設メンバーである藤谷操さん（南区相南）は、「近所にホームレスの人がいるみたいだけどどうにかしてください、という電話がかかってきたら、貴方がどうにかしてあげてと言ってあげるの」と微笑みました。

路上生活者になってしまうのは、偶然の成り行きから。しかし、路上に居続けさせているのは、行政の手当てが足りないから。どうして、金曜日でなく、木曜日にパトロールをするのかと訊ねると、「金曜日の夜に行政の手を必要とする人に出会っても、役所は土・日でお休み。対応を求められない。木曜日になら、翌日に行政の手を求めることができるから」と。支援を必要とする市民と行政の間に横たわる溝を埋める活動は、2012 年からは相模原市との協働事業となって、相談室運営、訪問事業を開始。現在、パトロールは第２、４木曜日の夜、小田急線の駅，ＪＲ相模原駅、相模原公園、淵野辺公園などを回って、おむすびや豚汁等を提供しています。また、生活保護申請のお手伝いをしたり、2009 年に開設したシェルター（一時宿泊施設）の提供も。これまで木パトの活動をを通じてアパートに入居された方は約 280 人にものぼるそうです。

神奈川県内には 14 の地域パトロール・グループがありますが、なかでも女性の多い「木パト」さん。野宿者から「自分のために来てくれるのが嬉しい」と言ってもらえる喜びを語るメンバーのみなさんの表情がひときわ印象的でした。

Note❶

野宿者と話したら普通の人でした――。木パト初体験の方は、みな口々にそう言います。

怖くありません。むしろ、野宿者のほとんどは石を投げられたり、花火を投げつけられたりされた被害者です。彼らの方こそ怖がっています。誰を？

わたしたちの方こそ、その怖れの意味を考えたいですね。

Note❷

「何かお困りごとはありませんか？」――もし、できるなら、呼吸を確かめて、そうお声かけしてみませんか。懐中電灯は下向きに。同じ目線で。

路上での生活は過酷です。深夜、早朝と動き回ってようやく生き延びられます。寝そべっているのは疲れ果てているのかもしれません。彼らは、助けを求めること、コミュニケーションをとることがあまり得意ではないのです。

Note❸

ホームレスの方は減ったのでしょうか？

長引く不況に2, 30代の方、女性でも居場所を失っている方がいます。ところが、見かける野宿者は減っているのです。ネットカフェやファーストフード店などで夜を過ごす等、わたしたちの目に見えにくくされている状況があるからです。わたしたちのまちを、わたしたちがよく観察することが必要です。普通の人がちょっとだけ手助けすることで、生きづらさを抱える人たちは元気になれるのです。

ボランティア参加、カンパなど
こちらにお問合せをどうぞ！
特定非営利活動法人　木パト（もくぱと）
〒252-0312 相模原市南区相南 2-25-65 翠ヶ丘教会内
ＴＥＬ０５０－３４０４－８６３７

クリップ・ボード

―ふくしラウンジ3周年イベント―

■2016年 3月26日(土) 10:00～15:00

1ページでご紹介しているボーノ2階自由通路にあるふくしラウンジにて行われる3周年記念のイベントです。

- 福祉事業所の自主製品を販売　（パン、クッキー、雑貨など）
- 福祉体験　車イス体験・高齢者疑似体験
- みんなのサロン　コーヒーやさん
- ボランティアによるパフォーマンス　　etc, etc

ふくしラウンジに集うみなさんの出し物いっぱいですよぉ。

ラウンジふくしまつり

※写真は、昨年３月の２周年記念のふくしまつりの様子です。まだ、のぞいたことのないみなさん、春のまつりにお運びください。

精神保健福祉普及啓発講演会

「心の病を抱えた者が自分らしく、地域で暮らすには」

講師●風間美代子 氏（多摩草むらの会・代表理事）

■2016年 3月26日(土) 13:30～16:00
■会場　相模原市民会館 3階第１会議室
■定員　１５０名　　■参加費　無料
■主催　あしたば会・みんなの里・ひびき・みどり会
※みどり会については2ページの記事を参照ください。

■問合せ先　相模原市社会福祉協議会　中央ボランティアセンター　TEL042-786-6181

NPO法人ここずっとは
市民相談窓口を開いています。**相談は☎042-745-0676**へ。

Information

ここdeシネマ

クールシェア・イベントとして開催予定です。

上映作品は追ってお知らせ！

第４回詳細は　facebook やチラシ等でお知らせします。

<ここ de シネマ> は" まちづくり" を応援します。
●市民活動・イベントの告知、情報フライヤーお持ちください。お客様が自由にお取りいただけるようにします。●事業主の皆さん、お店情報コーナーを用意します。チラシ置きします。●映画好きのみなさん、オフ会企画もどうぞ。

第４回は 2016年8月11日(木・祭日)
PM2:00上映開始予定

会場：相模女子大学グリーンホール・多目的ホール

観たい作品、劇映画、ドキュメンタリーを問わずリクエストください。

バリアフリー上映が原則です。

字幕・音声ガイドがない作品については、制作することも視野に入れています。そんな、こんなで関心をお持ちください。あるいは、運営スタッフにご参加ください。リクエスト、スタッフ申込み、字幕・音声ガイド制作志望の方、下記にご連絡ください。

『フリー情報紙　ここずたうん』 No.12
ここずっと
［発行日］2016年2月13日
［発行者］NPO法人 ここずっと
〒252-0303 相模大野9-6-18
ここずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676　【FAX】042-742-0447
【E-mail】info@cocozutto.jp